協議会意見への対応（洪水についての聞き取り調査）

○「子吉川の減災に係る取組方針」の作成にあたって、下記の課題があった。
- ◉ 第１回協議会意見「住民目線の意見を言える方がいた方が良い」
- ◉「沿川住民の水害に対する防災意識」の実態が確認しきれていない。

○課題の解決方策として沿川住民からの聞き取り調査を実施した。
- ◉ 由利本荘市の自主防災組織の組織化率は８８．７%※と非常に高いため、調査の第１段階として、地域の実情を把握している子吉川沿川の自主防災組織の代表者を対象とした。

※　由利本荘市　地域防災計画より。由利本荘市全域、子吉川沿川外地域を含む。

- ◉ 由利本荘市街地、中流部、上流部から子吉川沿川の自主防災組織１０団体を任意で選定し、電話による聞き取り調査を実施した。
- ◉ 聞き取り内容は以下のとおり

１．平成２５年７月、平成２３年６月、昭和４７年～昭和５９年、昭和２２年７月等の大規模な洪水を経験されたことはございますか？よろしければ、当時の状況・体験を教えて下さい。
２．大雨や台風、注意報や警報、子吉川の水位　等の情報はどのような手段で入手されていますか？
３．避難勧告・避難所開設　等の情報はどのような油断で入手されてますか？
４．最寄りの避難所、その避難所までの避難ルートはご存じですか？ 由利本荘市「わが家の防災マニュアル」等のハザードマップは活用されてますか？
５．実際の避難行動で困っていることがありますか？
６．その他ご意見等

□聞き取り調査結果　概要

○ 洪水の経験者が少なくなってきている
- ◉ 昭和５０年代の洪水による被害を記憶している人がいる一方、近年の洪水での避難行動・洪水による被災経験が無い人も多い。

○ 気象情報・避難関係の情報収集　⇒市からの直接連絡が中心
- ◉ テレビ・ラジオ・インターネットによる情報収集を行っている。情報収集手段の認知度は高い。
- ◉ 特に由利本荘市から自主防災組織への直接の連絡が主体となっており、防災体制の充実が伺える。

○ ハザードマップの認知度・活用度は高い
- ◉ ハザードマップを基にした避難訓練を実施している組織も多い。

○ 避難行動における問題点
- ◉ 特に問題がないとの回答が多い。
- ◉ 反面、一人暮らしの高齢者・障害者、自主防災組織活動への不参加、町内会未加入者の対応を問題視した回答もある。

■総括・今後の展開

○ 今回のアンケート調査は自主防災組織の責任者を対象にしているため、防災に関する知識が豊富で、防災に関する意識が高い人の意見であるため、一般住民の意見も取りまとめる必要がある。

○ 各自主防災組織は各自に活発に防災に関する活動を実施しており、勉強会等開催の相談もある。

○ 今後、「取組方針」における「啓発活動（防災教育）」「避難訓練」等において、同様の聞き取り調査等を行い、「住民目線」により「取組方針」を充実させていく。